

これまでの議論と今後の検討（未定稿）

令和 6 年 7 月 29 日

組織・制度ワーキング・グループ

会員選考等ワーキング・グループ

3 会員選考

(A) 国民が納得できるメンバー

- 科学者の価値は「新しい知識の創造」であり、会員選考において very best（学術的な卓越性）が最終的な価値であることは、ナショナル・アカデミーのスタンダードであることが確認された。
- 外国人会員の重要性についても、海外アカデミーへの調査で改めて確認された。
- 審議を主なミッションとする我が国の学術会議においては、学術の方向性や学術と社会の関係などを俯瞰的に議論するために必要な高いダイバーシティを確保する努力が必要。
- 会員の領域・カテゴリーごとに「新しい知識の創造」とはどのようなことを考え、very best に必要な資質・選考基準の言語化に務めるとともに、それに必要な手続き等を整えることが不可欠。
- 中期的な活動計画等を踏まえ、ダイバーシティのバランスの大枠、領域・カテゴリーごとの最低人数又は人数の目安などを設定することについて、引き続き検討（産業界、地方在住者、外国人など。若手研究者、女性の位置づけについては引き続き検討）。
- 領域・カテゴリーごとの資質・選考基準の言語化、ダイバーシティのバランスの大枠等の設定等に当たっては、選考助言委員会を活用して外部の知見を取り入れる。

- 会長が任命する選考委員会の構成員としては、産業界出身者、地方在住者、女性などが積極的に登用されることが望まれる。
- ◆ 日本学術会議は、特に優れた研究又は業績がある科学者のうちから、独立して会員を選考する
- ◆ 日本学術会議は、会員の選考に当たり、以下の事項を考慮する。
 - ・ 会員は、異なる専門分野間をつなぐことができる資質、政府や社会と対話し課題解決に向けて取り組む意欲と能力、国際的な活動実績その他の学術会議の使命・目的の実現に資する資質・経験を有する者であること
 - ・ 会員構成は、学術の進歩や社会の変化、学術会議の中期的な活動計画等を適切に反映したものであること
- ◆ 日本学術会議に会長が任命した外部の有識者からなる選考助言委員会（仮称）を置き、選考に関する方針等を策定する際にあらかじめ意見を聴くものとする。